
あの日に戻れたならば...

球児

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの日に戻れたならば…

【Nコード】

N3030H

【作者名】

球児

【あらすじ】

対称的な2人の人と付き合いそして別れ1人目の出会いは運命的しかしある日嫌気がさし別れた…そこから悪夢の日々が始まった。2人目の出会いは学校いつの間にか大好きに今回は絶対に続くと思った。でも突然の別れ…2つの出会いと別れから学べたことの数々…あの時に戻ってたらあんなことはしてなかつたのにそんな後悔を皆さんはしてないですか？後悔を幸せに変えませんか？

第1話（前書き）

この話しはノンフィクションを基に一部フィクションを交えた物語です。登場人物、団体は架空のものであり実際には関係ありません。

第1話

オレの名前はさとし。

中学3年生、野球部の副キャプテンだったが引退し毎日を暇をもて遊んでいた。

そんな毎日を送っていると卒業式があと20日までせまっていた。

「もう中学もおわりかあ」

そんなことを呟きベッドに横たわっていた。

ブーブーブーブー

オレの携帯がなった。

携帯には新着メール1件と表示されている。その時、このメールが今後自分の人生に

大きな影響をあたえるとは思わなかった…

メールを開く。

それは某ゲームサイトからだった。

ミニメールが届いています。

さとしはそのままサイトに接続しミニメールを開く。
すると、

お久しぶり。

みなみです

覚えてますか??

とかいてあった。

さとしはびっくりしながら返信した。

覚えとるよ???

ようオレっち分かったね?

と返した。

みなみとは

さとしのおばあちゃんの家とみなみの家が近く
ちっちゃい時によく遊んでいた。

しかし小学生になると

引越した影響で、2人が会うことはなくなっていた。

そんなみなみからのメールにさとしはなんだか嬉しかった。それから毎日メールをすることになった。

さとしはそのメールをとて楽しみにしていた。

卒業式まであと1週間となった。

そんな日また携帯がなる。

みなみからのメールだとおもい携帯をひらく。

しかし、相手はみなみからのメールではなかった。

後輩のすみこからだった。

すみことは、さとしの1学年後輩のソフト部であった。

暇なときにはメールをしたりするなかだった。

先輩。

話があるんで卒業式の日プール裏にきてください。
と書いてあった。

このメールがきて鈍感なさとしは
なんで？
なんかようなん？
と返信した。

すみこからは
言いたいことがあるから…と返ってきた。

このときようやくさとしは気付いた。
すみこが自分が好きだということに、

付き合う気なんてなかったさとしはどうしたらいいのかわからな
かった。

だから、みなみに相談することにした。

今まであったことを打ち
みなみに送信した。

みなみからの返事はなかなか来なかった。
その間はずっとすみことメールを続けていた。

しばらくしてみなみからの返事がきた。

さとしはどうするつもりなん？

そうかいてあった。さとしは

ようわからん。

と答えた。

みなみからの返信は次は早かった。

そんうなん。

そんなん勝手にすれば…

そっけないメールだった。

さとしはみなみからそんな返信がくるとなぜかがっかりしている。

なぜ？

そっけないメールがきただけで悲しくなるの？

さとしは多分付き合わないでといってほしかっただろう。

その時初めて自分の気持ちに気付いた。

オレはみなみのことが好きなんだと…

さとしは決断した。

すみこに付き合う気はないということを感じさせ
みなみに思いを伝えるということをし…

すみことメールを続けていたのでさとしは今から気づかせようとし
た。

でも本当にオレに告白する気なのか？

確かに話しがあると言われただけで絶対告白してくるとは限らない。

さとしは迷った。

そんなときからのすみこからのメール。

先輩は好きなひとはいるんですか？

さとしはこれが言うチャンスだとおもい

おるよ。

同じ学校にはおらんけど

違う学校にならそ。

さとしはそう返信をおくりただすみこからのメールをまった。
携帯がなった。

そっかあ分かった。
もしすみこが告白したら
先輩どうする？

そう書いてあった。

友達なんやけそんないわんちわかつとるちや。

あえてそう書いて送った。

しばらくすると

そっかあわかった。

んじゃまたね。

その日でメールを送った。

さとしは悪いことをした罪悪感のような気持ちが見回れたが
しかし、これでよかったんだと
自分にいいきかせた。

そのあとはみなみとメールをした。
何気ないメールだったが
さとしにとってはとても楽しかった。メールの返事を待っているとき
はとても待ち遠しかった。

次の日。

さとしの携帯がなる。

その相手はすみかからであった。

あの〜卒業式の日のことなんですけど…

さとしはすぐに返事をかえす

ん？どした？

するとすみこからのメールであった。

卒業式時呼び出してたことがあったじゃないですか？

あれも素晴らしいです。

用事終わったんで…。

ということなんでっ。

よかったら写真とってくださいな。

忙しいときにすみません。失礼します。

こうかいてあった。

さとしはたまらく胸がいたくなった。

ごめん。

ぼそっと呟きそっと携帯を閉じた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3030h/>

あの日に戻れたならば...

2010年11月6日13時34分発行